

令和元年度第2回地区推進会議 会議録

1. 開催日時：令和元年 10月24日(木) 午後5時30分開始

2. 開催場所：市川市役所仮本庁舎 第1・第2委員会室

3. 出席者

各地区委員 : 22名
社会福祉協議会 : 鶴ヶ谷事務局長、山崎事務局次長 ほか
清掃事業課 : 二宮課長、谷嶋主任
学校地域連携推進課 : 大崎副主幹、曾根主査
地域支えあい課 : 岡崎課長、飯島主幹、近藤主幹 ほか
福祉政策課 : 高橋課長、白井主幹 ほか
千葉商科大学 (オブザーバー) : 和田教授、学生2名

4. 議事

- (1) 要望・課題等に対する行政の取組みについて
- (2) 高齢者等ごみ出し支援について
- (3) 地域における団体・地域資源等との連携について

5. 配布資料

- ・ 会議次第
- ・ 資料1 要望・課題等に対する行政の取組みについて
- ・ 資料2 高齢者等ごみ出し支援地区推進会議資料
- ・ 資料3 地域における団体・地域資源等との連携について
- ・ 席次表

区 分	内 容
福祉政策課 白井主幹	<p>本日はお忙しい中、地区推進会議にご出席いただき、ありがとうございます。本日の進行を担当させていただきます福祉政策課の白井でございます。よろしくお願いいたします。</p> <p>なお、本日もご出席いただいている委員の方は、お配りした席次表の通りとなります。</p> <p><市川市、市川市教育委員会、市川市社会福祉協議会、千葉商科大学からの出席者の紹介></p> <p><資料の確認></p> <p>それでは、議題1「要望・課題等に対する行政の取組みについて」、地域支えあい課と福祉政策課より説明をさせていただきます。</p>
福祉政策課 高橋課長 地域支えあい課 岡崎課長	<p><資料1に基づき、説明></p>
福祉政策課 白井主幹	<p>ただ今の説明に関し、ご意見・ご質問等がありましたらお願いします。</p>
埴委員	<p>資料に書いてあるとおり、中央公民館に看板がつけましたが、見えづらいです。中央公民館は中もすごく暗く、地域ケアの部屋の広さは5坪弱で、車椅子の方は絶対に入れません。そういうところで、車椅子の貸し出し事業を行うというのは間違っていると思います。担当の方と話をした際に、場所を変えるという話がでたので、宮久保・下貝塚地区の拠点のように店舗などを借り上げたいと要望しました。八幡地区は建物を借りるにしても値段が高いのですが、一生懸命探してみたいと思っていますので、決まった時には、予算の確保をお願いします。</p>
地域支えあい課 岡崎課長	<p>ご意見ありがとうございます。担当から報告を受けております。八幡地区の地域ケア拠点は、たいへん歴史深い建物ではあるのですがバリアフリーとは程遠く、建物の外の表示についても、境内の中ということで制限があります。市川市民にとってはとても思い入れの深い八幡様の中ではあるのですが、やはり地域ケア拠点は、誰でも気軽に入ろうと思える場所で確保できればと、我々も考えております。埴委員がおっしゃられるとおり、八幡地区は建物の賃料も高いので、そこが</p>

	<p>心配な点ではありますが、一緒に検討を続けさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p>
石崎委員	<p>この資料では、前回の委員の皆さんの意見が簡潔にまとめられ、それに対してどのようなことをしたかということが一覧表になっているのですが、埴委員が発言されたとおり納得いかないという部分があります。例えば中央公民館の改修は難しいかもしれませんが、それでは次の拠点を設けるために、いつまでにどのような努力をするのか、どのような話し合いをするのか、という具体的なことも書いておいていただきたいと思います。真間地区も拠点がなくて、1年間議論した結果、民間の場所を借りました。その時には、行政のほうも議論の結果を理解し、家賃を負担していただいて、現在まで継続しています。また、菅野地区から、拠点が狭いので相談があってもプライバシーの確保が難しい、という意見がでていましたが、それについては答えがないようでしたし、看板についても、地域の皆さんがわかるような大きなものをつけてもらいたいという委員の意見に具体的に答えて、委員の皆さんが納得できるようにしてほしいと思います。</p> <p>また、人材育成について、8月に養成講座を開催していただいて私も1日だけ出席させていただきました。内容的には良かったと思いますが、受講した60人のつなぎ先が少数の民間事業者だけだったことが私としては不満でした。地区社協も登録してくれれば載せるとおっしゃっていましたが、3つの地区社協が手をあげてお互いさま事業をはじめようとしているのだから、地域に密着した人を地域で活動している団体につなげるということを大事にして、私たちに直接ご紹介いただけるような内容にさせていただきたいです。今年で終わるわけではないと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p>
地域支えあい課 近藤主幹	<p>研修にご参加もいただきまして、ありがとうございます。現在登録している団体は4団体ですが、そのうちの1団体はマンションの管理組合、マンション内の自治会の団体です。マンションの方が研修を受けたらマンションのお手伝いサービスを紹介したいし、自治会単位・管理組合単位で支え合いの取組みを行っているところもあることを知っていただきたいということで登録にご協力いただきました。研修受講者の中には、民間事業者を選ぶ方もいれば、自分の住む地区でお役に立ちたいと思う方もたくさんいらっしゃると思います。ご説明をさせていただきますので、お互いさま事業をはじめめる地区社協には、ぜひご登録をお願いしたいと思っています。</p>
石崎委員	<p>つながった実績はどのくらいありますか。</p>

<p>地域支えあい課 近藤主幹</p>	<p>実績につきましてはまだ確認しておりません。今年度はもう1回行徳地区のほうで研修会を行いますので、その分とあわせて年度末に確認する予定です。</p>
<p>千葉商科大学 和田教授</p>	<p>3つ確認させてください。</p> <p>1つ目は八幡地区の地域ケア拠点のスロープの件ですが、工事をすることが難しいことはわかるのですが、車椅子の方が入れない環境というのは許されないはずです。それならば、例えば、車椅子の方が来られた時に、折りたたみ式のスロープを設置するということもできないほどの環境なのでしょうか。</p> <p>2つ目は人材確保・育成に予算をつけてほしいという要望の件ですが、8月と11月の研修でどれくらいの予算が必要だったのでしょうか、それから来年度実施するならばどれくらいの予算規模が必要なのでしょうか。なぜそれを申し上げたのかというと、千葉商科大学には教室があって、夏休み・冬休み・春休みはあいています。そういった空き教室を有効に使っていただくことで場所は無償提供できます。それから、場合によっては講師についても、講義内容を示していただければ教員の有効活用で大幅に予算削減できるかもしれません。通常の予算を組むという発想のほか、千葉商科大学の教室・教員・場合によっては学生のサポーターの活用を検討してみてはどうか、というのが2つ目です。</p> <p>3つ目は研修の修了者の活躍の場の件ですが、8月・11月で研修をしてその方々がどう現場で活躍されているかを把握するのが年度末というのは遅すぎると思います。それから、ボランティアに関する情報が共有されていないということは、この場でも議論されていたはずですが。研修を受けた方が地域で活躍をされているかどうかはリアルタイムで追いかけるべきだと思いますが、それは不可能なのでしょうか。</p>
<p>地域支えあい課 近藤主幹</p>	<p>研修会の予算について、正確な金額は資料が手元になくわかりませんが、会場使用料は無料のところをお借りしているのでかかっています。今年度は中央と行徳のエリアで行うこととしていますが、今後ニーズが高まって千葉商科大学のエリアでも開催ということになれば、お借りできるとありがたいと思っています。また、講師謝礼金に関してですが、介護保険制度や個人情報の保護については私が講師となるなど行政で説明できる部分は行政で行っているほか、ボランティア活動の部分は社会福祉協議会の山口さんに講師をお願いしていて、謝礼金はかかっています。一方で、高齢者の心と身体の変化といった医療的な部分をお話しいただく医師、ヘルパー事業所などで生活支援に長く携わった介護福祉士の方、コミュニケーションの専門家の方</p>

	<p>など、外部の専門家に講師をお願いするほうがよい部分については、謝礼金をお支払いしています。</p> <p>それから、修了者が登録団体につながった実績につきましては、今年度開始した事業ということもありまして、大盛況ではありましたが、どんな研修なのかとりあえず受けてみようという方も混じっています。今後研修会の開催を積み重ねて、本気で生活支援に携わろうとする方が集まるようになればリアルタイムで把握することができると思いますが、現時点ではそういう方ばかりではないというのが実情です。今後開催実績を積んでいながら考えていきたいと思っています。</p>
地域支えあい課 飯島主幹	<p>1つ目の折りたたみ式のスロープでの対応に関してお答えします。八幡地区の地域ケア拠点のある中央公民館では、車椅子は左側からしか入れないのですが、その高低差とバリアフリー法に定められる1:1.2で計算しますと、約7mの長さが必要ということになり、駐輪場のところまで達するものになってしまいます。直線で約7mということで、踊り場を設けることを考えると、さらに長さが必要になってしまうことから、折りたたみ式スロープでの対応は難しいと考えています。</p>
福祉政策課 白井主幹	<p>他にございますでしょうか。</p> <p>それでは、次の議題「高齢者等ごみ出し支援について」に進ませていただきます。6月に行いました前回会議において、複数の委員より、実証実験の結果の報告を希望するご意見があり、議題とさせていただきます。清掃事業課より説明をさせていただきます。</p>
清掃事業課 二宮課長	<p><資料2に基づき、説明></p>
福祉政策課 白井主幹	<p>ただ今の説明に関し、ご意見・ご質問等がありましたらお願いします。</p>
阿部委員	<p>行徳地区では市が玄関前まで戸別収集をしてくれているところがあります。マンションの場合は各階に置いておくわけにはいかないのが困りますが、自治会関係のものは対応しています。他にも、先日、一軒家ですが80歳の方の家の玄関前に大量の廃材がありました。声掛けをしたら片づけられないということなので、電動のこぎりを借りて2時間かけて切りました。やっているとおの方も手伝ってくれました。パイプが残ってしまいましたが、他の業者に引き取ってもらえないかお願いしています。これは、お金をもらわずにやっています。私は防</p>

	<p>犯・民生・社協どれも担当しているので、関係している方のところは見回りをして声をかけて対応しています。また、自転車も同じで、自治会関係については全部無料で片づけています。何年も続けてきたおかげで自転車の不法投棄もなくなりました。要は、市が戸別収集をしてくれば、他は大きな問題にはならないと思いますので、工夫していただければと思います。</p>
<p>清掃事業課 二宮課長</p>	<p>現在、市川市では戸別収集は認めていません。もし行っているということであれば、皆さんで話し合っ集積所を作ってください、というお話をせざるをえません。ただ、昔からの関係で、委託業者が勝手に行っている可能性があるのは否定できません。戸別収集については、今後検討していくことにはと思いますが、相当お金がかかる可能性がありますので、有料化などもあわせて検討せざるをえないかと思ひます。また、阿部委員がおっしゃっていたようにコミュニティで行えている地区はいいのですが、そうでない地区もありますし、自治会等がない地区もありますので、市でフォローできる部分についてはフォローしていきたいと考えているところです。</p>
<p>阿部委員</p>	<p>今、ごみ袋は、15リットル・20リットル・30リットル・45リットルです。高齢者はそんなにゴミがでず15リットルまでたまりませんので、スーパーのレジ袋に入れて集積所に置いていく、そうすると業者は絶対に持って行ってくれない、そうするとごみが道にあふれてしまう、そうすると自治会に文句がきてしまい、しかたがないので自治会である程度片づけて市に電話してとりに来てもらう、この繰り返しです。いくら収集の方法を書いて集積所にだしても守ってもらえませんが、ごみ収集の件で説明会があった際に、昔は5リットルなどもっと小さいものがあつたが売上が悪くやめた、という説明がありました。が、5リットルなどの小さいごみ袋を作っていただければと思うので、検討してください。</p>
<p>清掃事業課 二宮課長</p>	<p>検討させていただきます。</p>
<p>石崎委員</p>	<p>この制度は来年施行されるのでしょうか。</p>
<p>清掃事業課 二宮課長</p>	<p>今はなんとも言えないところでございます。</p>
<p>戸田委員</p>	<p>2つ質問があります。1つ目、コミュニティ支援型のデメリットで協力者が見つかりにくいということが書かれていますが、今回の実験</p>

	<p>で協力者となっていた方とはどのような方だったのでしょうか。民生委員なのか、自治会の方なのか、市役所職員なのか、わからなかったので教えてください。</p> <p>2つ目は、安否確認についてですが、実験期間中に安否確認の事例がありましたら教えてください。</p>
<p>清掃事業課 二宮課長</p>	<p>コミュニティ支援型の協力者につきましては、共同住宅に住んでいらっしゃる方をその共同住宅のオーナーの方が支援していただきました。</p> <p>安否確認の事例につきましては、たいへん良かったことに、1件も安否確認の必要な事例がありませんでした。</p>
<p>福祉政策課 白井主幹</p>	<p>他にございますでしょうか。</p> <p>それでは、次の議題「地域における団体・地域資源等との連携について」に進ませていただきます。福祉政策課より説明と意見交換の進行をさせていただきます。</p>
<p>福祉政策課 正木主査</p>	<p><資料3に基づき、説明></p> <p>それでは、「地域における団体・地域資源等との連携」について、事例をお話しただけの方がいらっしゃいましたら、お願いいたします。</p>
<p>本柳委員</p>	<p>宮久保・下貝塚地区では県立特別支援学校市川大野高等学園と花の販売で連携しています。もう何回も行って、明日も下貝塚自治会館において花の即売会を実施いたします。</p> <p>どのようなきっかけで連携が始まったかということですが、拠点拡大策の一環として花の即売会を企画しました。ケア相談室である通称「寄り合い処」と下貝塚自治会館で実施しておりまして、多くの方がいらっしゃいます。社会福祉協議会と地域の拠点の場所を覚えていただくことにつながりますし、お互いに顔がわかり話ができる関係を作ることにもつながっていると思います。</p> <p>連携するうえでの課題ですが、最初は特別支援学校の生徒に来ていただいていたのですが、遠く、なかなか来られないという問題があります。本当は即売会と一緒に来ていただければ助かるのですが、現在は社会福祉協議会と地区で実施しています。</p>
<p>福祉政策課 正木主査</p>	<p>学校の生徒さんが育てた花の即売会をしているということでしょうか。</p>

本柳委員	はい、そうです学校は花だけでなく野菜・手芸など色々取り組んでいますので、そういったものについても今後連携がとればいいのではないかと、思っています。
福祉政策課 正木主査	連携によって、前回会議でテーマとなっていた「地域ケア拠点のPR」という課題の改善につながる取組みだと思います。ご説明ありがとうございます。他に事例をお話しいただける方はいらっしゃいますでしょうか。
阿部委員	<p>行徳地区では、以前は福祉まつり、今は行徳ふれあいまつりを行っています。今年は4回目になりますが、台風で中止になってしまいました。行徳総合病院・高齢者サポートセンター・社協・市の危機管理課・サロン・民生委員・地域のフットベースのグループにも入ってもらって、できるだけ多くの人を集めましょうということでやっていて、1回目は100人未満でしたが、前は220人の方が来てくれています。</p> <p>これまで、人手不足ということがあり、妙典中学校に子どもたちのお手伝いを何年もお願いしていましたが、なかなか協力してもらえず、クラブの顧問をお願いしてクラブ活動の子に来てもらうだけでした。しかし、今年は学校の方針が変わりまして、地域が学校に協力するばかりではなくて学校も地域に協力するというので、ボランティアを募ってくれ、20人参加するところまで話が進んでいました。我々は前々から人手が足りなくて困っていましたが、実施をするのが皆高齢者なので、重い荷物を運ぶ時などは大変でしたが、今回は中学生が協力していただけるような段取りができました。</p> <p>残念なのは、行徳駅前に自治会がなく、こうした行事の案内などが配れないということです。今は商店会に頼っていますが、商店会も個別のものは掲示してくれません。看板を立てるなど行政のほうで方策があればお願いしたいです。</p>
福祉政策課 正木主査	ありがとうございます。中学校との関係で、今回から学校の方針が変わったというお話がありましたが、地域の方からのアクションの起こし方も変えた部分があったのでしょうか。
阿部委員	最初にこのことで学校にお願いしたのは5年くらい前でしたが、その際にいい返事はしてくれたものの、他の件で問題があったようで、途中で立ち消えてしまいました。その後も、校長からは、学校として行うと事故があった場合に困るという話がありましたが、根気よくお願いし続け、コミュニティの委員長・施設開放の委員長にも声をかけ

	<p>ていただいて、今回学校がOKしてくれました。ですから、以前からの積み重ねがあって、ここまできたということです。</p>
<p>福祉政策課 正木主査</p>	<p>粘り強い努力が実を結んだということですね。ご説明、ありがとうございます。他に事例をお話しただけの方はいらっしゃいますでしょうか。</p>
<p>原木委員</p>	<p>信篤・二俣地区では、東横インホテルと地元の連携について話をさせていただきます。まず、東横インホテルの設立の経緯として、2017年6月27日に地元住民説明会がありました。原木3丁目原木インター横に、14階建て、高さ46.5m、シングルルーム421室、ダブル・ツインで40室のビジネスホテルの建設計画でした。その際、地域と密着した営業をしていきたいとの説明があり、その中で自治会活動にもたいへん理解をいただき、自治会の加入にも前向きであり、地元小学校4年生の体験宿泊、ロビーでのコンサート等、会社の方針との説明がありました。また、地元から、災害時の避難所として利用させてほしいという要望をいたしましたところ、前向きな回答をいただきました。地元といたしましても、地元との連携だけでなく経済の活性化にもたいへん期待を寄せておりました、ほとんど反対意見がありませんでした。その後着工され、東京オリンピックの建設ラッシュのためオープンがかなり遅れて、今年の8月12日にオープンしました。オープン約1ヶ月前に、オープン前日の8月11日に地元の方にモニターで泊まっていたきたいと体験宿泊の依頼がありました。さっそく地元の自治会、消防、市役所、社協、地区社協の推進員や相談員、警察、地元の会社、幼稚園から高等学校までの先生、近所の住民、各種団体の役員等に声をかけまして130名の方に宿泊いただきました。みなさん後日たいへん喜んでおられました。地元のホテルということで、親戚縁者の宿泊にもたいへん便利という声や、学校の先生からは朝の早い修学旅行の際などで利用したいという声、地元の商店街・飲食店からはお客さんが増えたという声があります。10月中旬の台風19号通過の朝、私は、公民館や避難所の状況を聞き、地元を車で巡回し、最後に東横インにうかがいました。その際、支配人と面接し、被害状況を聞きました。台風15号の時には、地下の機械室が水浸しになり、駐車場も冠水したということでした。また、台風19号の時には、道路に面したテラスのフェンスが風で飛ばされて歩道をふさいでしまったのですぐに撤去した、また、1階の道路に面したところは食堂がガラス張りなのでたいへん心配していたが割れなかった、上層階に泊まったお客さんからは風が激しくて怖かったという話があった、とのことでした。またホテル側からの要望といたしまして、すぐわきの車のでる道路が非常に狭くてミラーなどを設置してほしいという要望がありましたので、</p>

私がさっそく市の関係部署に連絡をとり、おそらくホテルの支配人と話し合いがなされているものと思います。また、高谷中学校から東横インに対し、学校運営協議会の委員になっていただくことと、ホテルマンの接客等についての講演を依頼しましたが、オープンしたばかりでたいへん忙しいということで、今回は実現できなかったようです。また、台風19号の際には、原木在住の宿泊客も多く、私の近所でも3人ほど宿泊しており、安心して過ごすことができたとのこと。こうした良好な関係を保ちながら、11月には自治会の加入や災害時の避難所の設置について話し合いの場を設けていきたいと思っています。市のほうでは帰宅困難者に対応する施設としてはたらきかけるという話も聞いておりますが、地元との関係の重要性についても話をしています。

福祉政策課
正木主査

地元の民間企業である東横インとの連携についてお話しいただきました。住民もホテルもWin-Winの関係になっていると感じました。最初のきっかけは地元住民説明会という偶然のものですが、良好な関係を継続できているのは、原木委員はじめ関係者が様々な努力をされていることによるものだと思います。ご説明、ありがとうございます。他に事例をお話しただけの方はいらっしゃいますでしょうか。

戸田委員

市川第二地区では、先月9月28日土曜日に、第15回ふれあいセンターまつりを開催しました。この祭りが「地域における連携」にぴったり当てはまる内容ではないかと思われましたので、発表させていただきます。ふれあいセンターというのは、大洲防災公園のところにあります急病診療所が入っている建物です。市川第二地区社協の拠点はこの建物に入っているのですが、同じようにふれあいセンターを拠点として活動している施設が行うお祭りが「ふれあいセンターまつり」です。町会・自治会、消防署、高齢者サポートセンター市川第二、ファミリー・サポート・センター、大洲デイサービスセンター、障がい者の基幹相談支援センターが連携して開催しています。各町会・自治会から品物の提供を受けての市川第二地区社協のバザー、障がい者の作業所の方々が手作りになっている手工芸品・クッキー・ジャムなどの販売、消防署では地震体験車、消防車・救急車の見学会、消防服の着体験などを行っていきまして、近隣に住む10くらいの町会・自治会の方々が参加し、子どもたちも参加するととても楽しいお祭りです。私たちのサロンも針などを使わないで作れる作品を子どもたちに教えていて、今回は毛糸で作る小鳥ちゃんや風車を作りました。それから、オープニングでは平田町会の太鼓部の子どもたちの演奏があり、その太鼓の音を聞きつけてかけつけてくださる方もいらっしゃいました。こうしたお祭りの内容を記載したチラシは、市川第二地区社協のエリア

内にある全ての小中学校・幼稚園・保育園・市川工業高校に配布しています。とても有意義で、お互いのコミュニケーションがとれ、素晴らしい行事だと、毎年スタッフとして参加しながら思っています。

もう1つ、この頃、2ヶ月おきに開催される地域ケアシステム推進連絡会に八中ブロックのコーディネーターの方や教育委員会の先生がたが参加してくださるようになり、すごくよくなったと思っています。

福祉政策課
正木主査

質問ですが、ふれあいまつりのような地域の団体が連携する行事が年に1回あると、日頃のコミュニケーションも円滑になるのでしょうか。

戸田委員

はい、もちろんです。15回ともなりますと、他の町会の方などとも、お互い顔の見える関係、道でお会いした時に挨拶ができる関係ができていて、すごく市川第二地区がまとまってきたという感じがします。

福祉政策課
正木主査

おそらく地区の全ての学校へのチラシ配布など大変だと思いますが、そのような労力によってお祭りの成功、日頃の良好な関係につながっているのだと思いました。ご説明、ありがとうございます。他に事例をお話しいただける方はいらっしゃいますでしょうか。

石崎委員

真間地区では夏に地元の境内ですいか割り大会を行っていて200人くらいの子どもたちが来てくれます。かつては40年続いた単一自治会の行事だったのですが、子どもが少なくなったため、地区社協が事務局となってこれを大きく広げて行うことになり、今年で3回目です。しかし、担い手は高齢者が多く、暑い中体力的に厳しいので、なんとか若い人に関わってもらいたいということで、今年は、防災協議会で顔見知りになったということもあり、真間小のPTA、パパの会、消防団、野球チーム等に声をかけて手伝いをお願いしました。8月当日までに3ヶ月前から月に1回会議を行っていましたが、現役の世代は午後6時からの会議には出席するのがなかなか難しいため、私が議事録を作り、メール配信して、出席できなくても内容がわかるようにしたところ、当日は、多くの方が集まってくださり、色々なことを手伝っていただけました。開催の2・3日前に、「クーラーボックス、クーラージャー、テントを誰か持ってきてくれませんか。」というのをメール配信したところ、当日持ってきてくださる方がいて、クーラーボックスが大活躍していました。当日は、テントの設営、ゲームの補助、場内の見守り等で協力いただいたほか、写真撮影が得意な方からはいい写真を提供していただき、広報紙の一部を飾ることができました。本当に助かりました。連携にあたっての課題や問題は特にありません。会議

に参加するという形でなくても、他のメールなどの手段を活用して緩やかにつながっていけないかと思いました。

もう1つは高齢者・障がい者への取組みに関してです。高齢者サポートセンターとは常に連絡を取り合い、近隣の介護保険事業者、障がい者支援団体との連携も緊密にしています。ケースごとに相談をもちかけて話し合いを重ねており、相談員にはできない専門機関としての援助をしてもらっています。例えば、家族関係に入り込む対応や、新しいサービスが必要な場合にデイサービスを増やしたり、歯科医に通っていた方がそこに行くことが大変になった時に訪問歯科をご紹介いただいたり、障がいをお持ちの方には就労支援や生活支援をしたり、ということで、色々な団体に手を貸していただいています。ただ、ケースによっては非常に困難で、長期間にわたっていて、行政窓口を転々とすることになる場合があります。ある方の場合には、ハローワーク・アクセス・えくる・がじゅまる・そらという順で紹介されてきましたが、またハローワークやアクセスを紹介され、ぐるっと戻ってきてしまいました。何年もかかっている、1人の方を支えるのはこんなにも大変なことかと思いますが、色々な専門機関が繋がっていて、手は差しのべられているのではないかと、思います。

福祉政策課
正木主査

1つ目のすいか割り大会については、防災協議会が若い方のいる団体と知り合うきっかけになっているということと、働いている方に対して会議の議事録をメールで配信するという工夫をすることで、このように若い方にお手伝いいただける関係になったということの、2点が印象に残りました。

2つ目の専門機関との連携につきましても、確かになかなか解決が難しいことはあると思いますが、1人の方を皆で支える関係が地域できているのだと感じました。

ご説明、ありがとうございます。他に事例をお話しいただける方はいらっしゃいますでしょうか。

松藤委員

菅野・須和田地区では、以前には、建替える前の市民会館1箇所です。「ふれあい会食会」を行っていましたが、建替えがあり食事もできなくなってしまったものですから、しばらく会食会を行っていませんでした。今回、須和田・菅野・東菅野と3つの地区ごとに分けて、久しぶりに食事も楽しめるふれあい快笑会を行いました。大きな会場はないので、50～60人が集まれるくらいの自治会館やお寺などで会場を借りて、独居の高齢者の方・80歳以上の高齢者の方を招待して行いました。そのための準備として、民生委員と自治会の役員と地区社協の福祉委員が集まって会議をし、お互い情報交換を行い、お手伝いの呼びかけも行いました。もちろん、高齢者サポートセンターの方々にも来

ていただきました。また、ふれあい快笑会当日には、ただ食事をするだけではなく、地域で活躍している合唱団・バンド、それからNPOで振り込み詐欺を防止するために頑張っている「コントdeげき隊」に来てもらい、そういった地域の様々な団体と交流しながら行わせていただきました。また次回も行ってほしいという声をいただいています。

福祉政策課
正木主査

ふれあい快笑会を中核にしたつながり・連携のお話をさせていただきました。ふれあい快笑会に地域の合唱団、バンド、NPOがいらっしゃったというお話でしたが、そういう団体とはどのようにつながりを持っていたのでしょうか。

松藤委員

合唱団は、我が家を活動拠点にしている団体で、地域の高齢者が集まって月に2回稽古をしています。近くに住んでいるプロの方に教えてもらっていて、発表会を必要としていたので、ふれあい快笑会に来ていただきました。そうすると、合唱する方も1年間の稽古の励みになりますし、観客の方も地域の高齢者が頑張る姿を見ることができるので、両方にとって良いと思っています。また、NPOも私自身がつながっていて、ぜひ来てくださいとお願いしました。また、バンドは地区社協の副会長が参画しているバンドで、お願いしました。そういう身近なサークル・団体と一緒に活動しています。

福祉政策課
正木主査

福祉と芸術・文化で、人を介してうまくつながり・連携しているという感想を持ちました。ご説明、ありがとうございます。他に事例をお話しいただける方はいらっしゃいますでしょうか。

山崎委員

私どものボランティア協会は、10月13日に、草笛の丘での障がい児者とのデイキャンプを企画しました。今回は、国際交流協会の協力を得て、本八幡にある日本語学校の外国の方も一緒ということで、外国の方・障がい児者・私たちが工芸体験をしながら焼きそばを食べるという内容でした。13日は台風が来るということで、残念ながら中止にいたしました。今後も毎年これを企画したいと思っています。

福祉政策課
正木主査

外国の方と障がい児者が交流するという点で特徴的であり貴重な事例だと思いました。ご説明、ありがとうございます。

終了時刻が迫ってまいりましたので、この議題は終了とさせていただきます。ご協力、ありがとうございました。

福祉政策課
白井主幹

様々な連携の事例をご紹介いただきました。今後の参考にさせていただきます。

全体を通してご意見等がある方はいらっしゃいますでしょうか。

戸田委員	<p>平田町会では、平田小学校の体育館で敬老祝賀会を開催していますが、出席する高齢者の方から、お手洗いが和式であることがつらい、1個でよいから様式があるほうがよい、という声が聞こえてきます。体育館は避難所にもなりますし、地域で子どもたちを育てようということで地域の方と子どもたちが交流するイベントも開催されると思うので、対応いただきたいと思いますが、どこにお伝えすればよいのでしょうか。</p>
学校地域連携 推進課 大崎副主幹	<p>学校の施設に関しては教育委員会の教育施設課が担当しています。現在、児童・生徒が使う校舎については順次改修して洋式トイレを増やしている状況ですが、体育館のほうはあまり進んでおりませんので、私どものほうから教育施設課に連絡しておきたいと思います。</p>
埜委員	<p>公共施設のトイレは和式が多いです。また、洗浄器についても普及してきたので、ついていないとトイレを利用しづらいという方もいます。トイレは洋式にして、洗浄器をつけていただければと思います。</p>
福祉政策課 白井主幹	<p>所管課に伝えておきます。 議題は全て終了しました。最後に、福祉政策課長の高橋より挨拶をさせていただきます。</p>
福祉政策課 高橋課長	<p>ありがとうございました。 皆さまが地域で行っていることを知ることができ、他の団体とつながるきっかけが色々あるということを改めて認識しました。これからもこのような場で情報を共有させていただければと思っていますので、よろしく願いいたします。</p>
福祉正確課 白井主幹	<p>以上で本日の地区推進会議は終了いたします。みなさまお疲れ様でした。</p>